

認知症研究に弘大参画

来年度から2000人調査、独自検査も

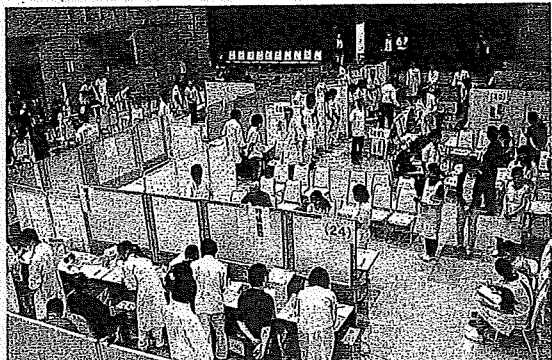
市民に成果を還元

弘前大学が、認知症予防の確立を目指す大規模認知症コホート（集団）研究に参画する。日本医療研究開発機構の認知症研究開発事業の一環で、九州大や東京大、慶應義塾大などの共同研究。全国8拠点、高齢者約1万人の協力の得て、来年度から調査を開始し、認知症の危険因子などを突きとめる。弘大では独自に血液検査や口腔診査も行う予定で、認知症に限らず健康全般に関するデータを幅広く集め、市民に調査結果を還元することで、短命県返上に取り組み。

福岡県久山町住民を学究環境医学分野の対象とした認知症コホート研究「久山町研究」に、かねてから取り組む九州大大学院医・高認知症コホート研

究として知られておる対象に、血圧や喫煙習慣などについて調査。認知症の発症率や危険因子などの解明に役立てる他、ひいては認知症予防法の確立を目指す。調査期間は2

岩木健康増進プロジェクトのプロジェクト健康診などの実績から、今回のコホート研究に参画する弘大は5月30日、弘前市の岩木文化センターあそべーる



今回弘大が参画するコホート研究では、久山町研究の知見を参考に、全国8拠点、65歳以上の高齢者約1万人

020年度を当初のめどとし、毎年追跡調査する。

弘前市（調査機関Ⅱ）弘前大学以外の拠点は、岩手県八戸町（岩手医科大学）、長野県佐久地域（慶應義塾大）、石川県中島町（金沢大）、鳥取県海士町（鳥取大）、愛媛県中

大。今回のコホート研究では、弘大は65歳以上の弘前市民約2000人を対象に調査。認知症に関する各拠点共通項目の調査に加え、弘大独自として血液検査や体力測定、口腔診査など健康全般のデータを収集する。

調査は岩木健康増進プロジェクトの翌週に同じ会場を使用し、市と協働で実施する予定。弘大は認知症・生活習慣病の早期発見や予防法の解明を目指す「岩木健康増進プロジェクト」の実績から研究に参画。岩木地区から

ら市全域に裾野を広げた今回のコホート研究に、弘大大学院医学研究科の中路重之研究科長は「認知症だけでなく、健康全般について調査し、その結果をできるだけ住民の皆さんにお返しして短命県返上を目指したい」と話した。